

現在でも砂金をとった山や水路などの跡がよく残っているんだよ。



砂金のとり方

絵巻「西三川砂金山稼方図」
(新潟県立歴史博物館所蔵)

1 砂金を含む山の土を掘りくずす



2 掘りくずした土に、堤にためていた水を勢よく流して、不要な土砂をとり除く(大流し)



3 「ゆり板」を使って砂金をとる



水の中でゆり板をゆらしながら砂を捨てていく。金は重いからゆり板にたまるんだ。



とらまるやま 虎丸山



西三川最大の「稼所(砂金を取る場所)」と言われた虎丸山は砂金とりでくずされたためにできた急な斜面が残っています。今も木が生えず地肌が見えています。

注釈

※このイラストは、砂金採取の方法を表すイメージ図であり、実際の地形とは異なります。

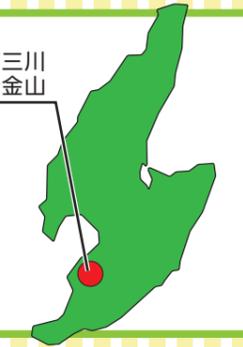
赤いんだね!



なぜ、タヌキ?

佐渡では、相川に伝わるタヌキの大親分「ニツ岩団三郎」が有名で、ニツ岩大明神にまつられています。また佐渡では、タヌキのことを「むじな」や「とんちぼ」と呼んでいます。

西三川砂金山



佐渡の金の歴史はこの山から。平安時代(約千年前)に書かれた『今昔物語集』には昔、能登現在の石川県の製鉄集団の親方が、佐渡に渡り20日余りで1000両もの金を持ち帰ったという記述があります。それがこの西三川だと言われています。

すいろあと 水路跡

遠くの山から水を引いてきます。

つつみ 堤

引いてきた水をためておくための小さなダムのようなものです。

ジェームスのポイント!!

西三川砂金山では、大量の水を使って土砂を洗い流す「大流し」という方法で砂金をとっていたんだよ。



すいろあと 水路跡



土砂を流すためには大量の水が必要であり、その水を集めるため、砂金山の周辺には多くの水路が作られました。最長で9km以上におよぶものもありました。

きんざんやくしょあと 金山役所跡



佐渡奉行所の役人が砂金山で働く人々の監督をしていました。とれた金はここに集められ、佐渡奉行所に納める分と働く人々のとり分を決めていました。

げんざい ささかわしゅうらく ようす 現在の笹川集落の様子(空撮)



1872年(明治5年)、西三川砂金山は閉山しましたが、砂金をとっていた人々の子孫は今も集落に住んでいます。

重要文化的景観に選定されました。

佐渡の金の歴史はこの山から始まった

へいあんじだいごころ へいあんじだいごころ へいあんじだいごころ へいあんじだいごころ
平安時代頃~明治5年

Nishimikawa

西三川 砂金山